

スポーツスマン

From 中華人民共和国駐大阪総領事館

VOL.13 2022年3月

Spokesman From Consulate-General of The People's Republic of China in Osaka



共に未来へ——冬季五輪特別号

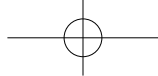


順位	国家/地域	金メダル	銀メダル	銅メダル	合計
1	ノルウェー	16	8	13	37
2	ドイツ	12	10	5	27
3	中国	9	4	2	15
12	日本	3	6	9	18

2月4日、第25回冬季オリンピック大会が、かつて夏季オリンピックも開催された北京で盛大に幕を開けた。開会式から閉会式までの17日間、北京冬季五輪は新型コロナウイルスがもたらす度重なる困難を克服し、グリーン・シェア・オープン・クリーンというオリンピック開催理念にのっとり、一流の競技場、安全な感染症対策、心のこもった歓迎と接待、心温まるサービス保障により、世界に忘れがたい冬季オリンピックの記憶を捧げた。14億の人口と5000年の文明史をもつ中国は、ふたたび世界に自らの心の

こもったもてなし、独特な魅力をみせたのだ。91カ国・地域の3000人近いアスリートたちが力を尽くして闘い、極限に挑戦し、自己を超越し、2つの世界記録と17の冬季五輪記録を刷新し、「より速く、より高く、より強く、ともに」というオリンピックのモットーを完全に表現した。なかでも中国代表団の金メダル数、総メダル数はどちらも史上最多を記録し、日本代表団も18個というメダル獲得数の最高記録を達成するなど、好成績を残した。多くのアスリートたちは激しい競い合いの中で、共に笑い、共に涙し、情熱と夢のなかで深い友情を培い、コロナの寒い冬のなかで、人類の粘り強い努力と奮闘という貴重な精神をみせてくれた。

こもったもてなし、独特な魅力をみせたのだ。91カ国・地域の3000人近いアスリートたちが力を尽くして闘い、極限に挑戦し、自己を超越し、2つの世界記録と17の



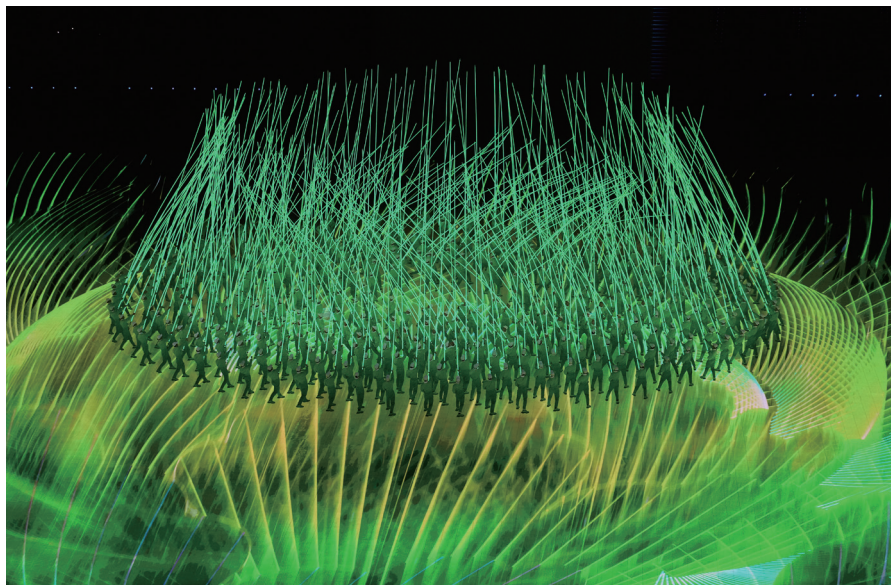
開会式・閉会式の素晴らしい瞬間を回顧しよう

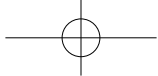


今回の冬季五輪の開会式・閉会式のテーマは「一つの世界、一つの家族」で、総監督をつとめた張芸謀は、一つの雪の結晶の物語をプロットとし、開会式では小さな雪の結晶が集まって大きな雪の結晶になり、閉会式では、大きな雪の結晶が人々の心の中で聖火へと変わっていった。張監督は、「われわれは共に未来へ向かうという理念、全世界の人々が困難を克服し、コロナに打ち勝って、素晴らしい未来を迎えるという共通の価値観を伝えたのです」と語った。このほか、開会式では、二十四節気がカウントダウンされ、「黄河の水天上より来たる」、各国選手の「中国門」からの入場、「迎客松」が北京で八方からの客を歓迎、「氷の五輪」が氷を破って出現、子どもたちが「オリンピック賛歌」を斉唱し、小さな平和の鳩がハートマークとなった。閉会式では、「中国結び」で世界各国の相互交流を示し、壮大で美しい折柳寄情（柳の枝で心を託す）や、08年オリンピックのテーマソング『私とあなた』が鳥の巣の会場に再び響き渡り、「一つの家族」という花火文字が現れるなどの素晴らしい瞬間により、5000年の中華文明の蓄積がもたらす美意識と、最先端テクノロジーチームがつくりあげた現代の奇蹟を余すところなく世界に見せつけた。

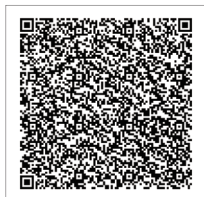
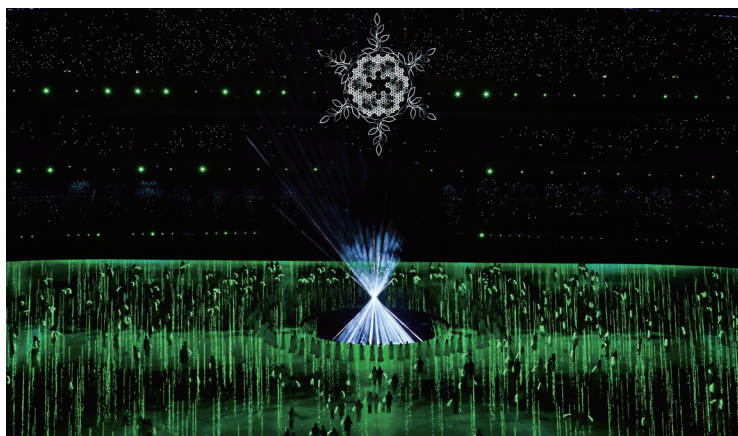


張芸謀監督は本当に中国人のロマンをよく理解しているよね





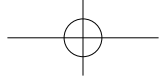
まさに張監督が語るように、「参加国・地域のプラカード、演出メンバーの服装から、平和の鳩のパフォーマンス、主題歌の合唱まで、さらに聖火台への点火と消火まで、各国家・地域の異なる雪の結晶が五輪旗のもとに結集することを意味していて、これは中国式ロマンであるだけでなく、『一つの世界、一つの家族』が手を携えてオリンピック精神を発揚するという真実の描写なのです」。開会式・閉会式の純白、ロマン、純潔、耽美的な美的風格が相乗効果をうみ、『真実の大音は、かえって耳には聞こえないほどの微かな音である』という芸術方法により、世界の「人類運命共同体」に対する共鳴を呼び起こしたといえる。



閉会式日本語版の QR コード (NHK のサイト)

素晴らしい開会式・閉会式をもう一度見たい人は見逃さないでね！





中国が手にした9枚の金メダルを振り返る



2月5日

競技初日に行われたショートトラック混合2000メートルリレー A組決勝で、中国チームの曲春雨、范可新、張雨婷、武大靖、任子威の5人の選手が2分37秒348という成績で金メダルに輝き、中国代表団および北京冬季オリンピック初のショートトラック金メダルとなった。

首都体育館で、中国スピードスケートショートトラックの新たな「リーダー」任子威選手が、男子100メートルで金メダルを取り、今回の冬季五輪で中国チーム初の「ダブル金メダル」獲得者となった。

2月7日



愛凌はまるで飛んでいるみたい



2月8日

フリースタイルスキー女子ビッグエア決勝で、期待のかかる「カエルプリンセス」谷愛凌選手が、正念場となった三回目でプレッシャーに打ち勝ち、高難度の技を決め、94.50点で金メダルを獲得した。

スピードスケート男子500メートル決勝で、中国の高亭宇選手が34秒32という成績で優勝し、オリンピック記録を更新し、中国の男子スピードスケートで初めての金メダルをもたらした。

2月12日

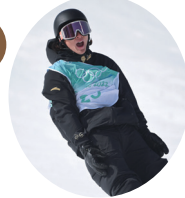


2月14日

空中技をまるまる20年練習し、4回目の冬季五輪出場となった中国の徐夢桃選手がとうとう夢をかなえ、北京冬季五輪フリースタイルスキー女子エアリアルで金メダルを獲得した。

スノーボード男子ビッグエア決勝で中国の蘇翊鳴選手が金メダルを獲得した。蘇選手は17歳と362日という年齢で中国最年少冬季五輪金メダリストとなった。

2月15日



2月16日

フリースタイルスキー男子エアリアルで、同じく4度目の冬季五輪となった「老将」齊広璞選手が129.00という高得点で、中国代表団の七つ目の金をもたらした。

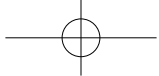
フリースタイルスキー女子ハーフパイプで谷愛凌選手が再び完全な滑りで金メダルを獲得した。これは今回の冬季五輪で谷選手の二個目の金メダル、三個目のメダルとなった。

2月18日



2月19日

フィギュアスケートペアのフリー演技で、中国ペアの隋文静・韓聰選手が高難度の4回転ツイストリフトを行い、9枚目の金メダルで中国代表団の有終の美を飾った。



われわれをより高く、より速く、より強くする挑戦

己を突破し、極限に挑戦する。今回の冬季五輪で多くのアスリートたちが人類の極限に挑むことで、本物のスポーツ精神、本物のオリンピック精神を見せてくれた。

北京冬季五輪フィギュアスケート男子のフリー演技で、中日両国で多くのファンを抱える日本の羽生結弦選手が4回転半ジャンプに挑戦したが、残念なことに重心を捉え損ない、着地に失敗した。4回転半はフィギュアスケートの中でも難度が最も高いジャンプで、今まで正式試合の中で成功させた選手はおらず、羽生選手はケガを抱えながら、多くの人がそこまでしなくてもいいだろ

うと言う中で4回転半を飛び、断固として冬季五輪の舞台上に己に挑戦し、極限に挑戦することを選んだ。これは羽生選手のヒロイズムであり、満身創痍で

あろうとも戦場に向かい、やりたいことをやり尽くし、己に対する挑戦をやり遂げたのだといえる。

2月8日午前、北京冬季五輪フリースタイルスキー女子ビッグエア決勝で、谷愛凌選手は暫定総順位が3位という状況のもとで、大胆にも自分がいまだ成功させたことのない1620の大技に挑戦した。これは女子ビッグエアでも最も難度が高い技で、試合後の分析によると、このときの彼女のジャンプは高さ4.3メートル、幅20.5メートルで、いわば1.5階分の高さから4.5回転しながら20メートル遠くに跳ぶようなもので、最終的に愛凌はこの技により一挙に金メダルを得た。極限を突破し、卓越を求めることは中国のウィンタースポーツ

アスリートのオリンピック精神に対する素晴らしき解釈だといえる。

43歳のガーナ代表のカルロス・メーダー選手は、今回の冬季五輪アルペン



「冬季五輪おばあちゃん」の心温まる物語には、感動したね



スキー参加選手の中でも最高齢の選手だった。彼の人生の信条とは「高い山なんてない」というも

のだ。今回の冬季五輪では、彼はアルペンスキー男子大回転の競技に参加した。これは彼にとって初めてのオリンピックで、冬季五輪に参加した三人目のガーナ人でもあった。

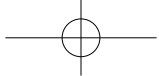
今回のオリンピックでは、ノルウェーやドイツといった従来のウィンタースポーツ強国が依然として優勢で、競技場で金や銀を獲得していたが、モロッコ、ガーナ、ナイジェリア、エリトリア、マダガスカルの5カ国6人のアフリカのアスリートも同様に尊敬を勝ち取っていた。先天的な気候条件、それに加えて多くの選手がケガや病気に苦しむなど、この6人の選手は冬季五輪会場に立つために、すでに度重なる試練を克服していて、いかなる困難も彼らを阻むことはできず、アフリカのアスリートも同様に、冬季五輪の舞台上でウィンタースポーツのスピードと情熱を見せることができるんだということを、人々に証明してみせたのだ。

2022年北京冬季五輪の会場では、さらに一人の「高齢」女性選手が、みんなの注目を集めていた。それは、彼女が金を取ったためではなく、容姿のためでもなく、彼女のオリンピック精神によるものだった。彼女はクラウディア・ペヒシュタインといい、ドイツのスピードスケートの伝説的選手で、世界で初めて8回冬季五輪に参加した女性選手でもあり、北京冬季五輪の閉会式の翌日(2月22日)に彼女は50歳の誕生日を迎えた。彼女は親しみをこめて「スケートおばあちゃん」と呼ばれた。このドイツ選手の成績は平凡だったかもしれないが、8回もオリンピックで戦い、依然として試合やスポーツがもたらす楽しさを味わうことができること自体がめったにないことだ。まさに彼女自身が語るように、「私の両足は老いているが、心はまだ若いまま」であり、こうした粘り強い老将たちに心からの敬意を捧げたい。



4回転半を成功させるには、空中で時速50キロで走る自動車の車輪の回転速度が必要なんだって。





われわれをともにする感動

今回のオリンピックは、競技のパワーで新型コロナウイルスのまっただ中にある各国の人々に温もりや希望を届けただけでなく、動揺し不安定な世界に平和と団結のパワーを注ぎ込んだ。多くのアスリートやコーチたちは試合場で互いに助け合い、励まし合い、「友誼第一、試合第二」を生き生きと表現し、勝敗や国境を超えた真の友情をみせてくれた。

北京五輪フィギュアスケート男子シングルの競技の後、中国の金博洋選手と日本の羽生結弦選手はカメラのレンズに向かって「シンクロ演技」をみせ、二人はさらに金選手が羽生選手に贈ったパンダの帽子をかぶって記念写真を撮った。これに対し、中国駐日本大使館の公式ツイッターは特別に二人の友情に「イイネ！」をした。18日の練習が終わった後、中国アイスダンスのペア、王詩玥・柳鑫宇選手もまた、羽生選手に春節の赤い上着を着た「ピン・ドゥンドゥン」を贈り、大柄な柳鑫宇選手は、今回のオリンピック期間中に六度目となる羽生選手の「お姫様だっこ」を実現する「壮挙」を成し遂げた。



どうやら羽生選手の中国での人気は「福原愛ちゃん」と同じくらい高いみたいね



2月15日、わずか17歳の蘇翊鳴選手が、北京冬季五輪スノーボード男子ビッグエアで歴史的な金メダルを得た瞬間、彼と彼の日本人コーチ佐藤康弘さんは、とうとう抱き合って泣いた。この中日師弟の背後には友人や家族のような感情があり、多くの中国のネットユーザーを感動させた。金を取る前、スロープスタイルの決勝で、蘇選手は銀メダルを取っていて、試合後、彼は喜んで銀メダルを掲げて写真を撮り、佐藤コーチはその傍らで手を叩き、微笑みながら「最高」と言い、蘇選手は彼をみてメダルをはずし、コーチにかけようとし、佐藤はちょっとびっくりしたようにメダルを受け取った。二人は強く抱き合ったが、このとき蘇選手は佐藤コーチに、「人生を変えてくれてありがとう」と言った。その瞬間、佐藤コーチは耐えきれずに顔を覆って泣き、二人はともに涙を流して互いにありがとうと言った。

5日に行われたカーリングの混合ダブルスのリーグ戦で、中国のカーリング混合ダブルスのペアは5対7で米国



QRコードをスキャンして二人の感動物語を見よう！



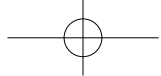
に敗れた。しかし試合後、中国の范蘇圓選手と凌智選手は微笑みを浮かべ、英語でライバルのクリストファー・プライズ選手とヴィッキー・パーシガー選手にお祝いの言葉を述べ、彼らに思いがけないプレゼント——美しい「ピン・ドゥンドゥン」オリンピック記念バッジをプレゼントした。

「このバッジはとてもきれいだし、ものすごくユニーク。これから私のデスクに長く置かれることになるだろう」とプライズ選手は語った。彼はずっと中国が好きで、中国のカーリングチームには多くの友人がいて、「われわれはいつも相手にスマイルとゲータッチを送ります」。凌智選手の故郷がハルビンだと知ると、プライズ選手は機会があればそこで「冰雪大世界」の美しい景色を見たいと言い、「私はわれわれの国の政治的要素に妨害されることはありません。われわれには同じ血が流れていて、同じスポーツをしていて、互いの文化を体験しています。これこそ愛で、とても面白いものです」と語った。

閉会式で放映された国際オリンピック委員会のショートフィルム「信念の力」の中に、次のような1シーンがあった。フリースタイルスキー男子エアリアル決勝で、前回優勝したウクライナのアブラメンコ選手が銀メダルをとり、ROCのイリヤ・プロフ選手が銅メダルをとった。試合後、この二人の選手は互いにゲータッチをしてハグし、メダルの喜びを分かち合った。ウクライナ情勢の見通しが見えない現在、この二人がしっかりとハグをした瞬間、「団結友愛、

公平競争、相互理解」というオリンピック精神が、政治に翻弄されることなく、完全に表現されたのだ。





オリンピック期間中のトップトレンドを紹介

Top1：ビン・ドゥンドゥン



この可愛いビン・ドゥンドゥンを拒むことができる人なんていないよね！

ビン・ドゥンドゥン（冰墩墩）は北京冬季五輪のマスコットで、パンダのイメージとエネルギーに満ちた



氷の結晶でできたシェルが結合したもので、中国北方の冬の代表的なおやつ「冰糖葫芦（ビンタンフル、飴がけしたお菓子を串に刺したのもの）」にも似ている。ビン（氷）は純潔や力強さを象徴し、冬季五輪の特徴でもある。ドゥンドゥン（墩墩）は、誠実・篤実、可愛らしさを意味し、パンダの全体イメージに合致していて、冬季五輪アスリートの強い身体と粘り強い心、人の心を鼓舞するオリンピック精神を象徴している。大会が始まってからというもの、マスコットのビン・ドゥンドゥンは可愛いらしいその姿で、今回のオリンピックの「トップトレンド」の名に恥じないものとなり、競技場内外やネットメディアの至るところに出現した。

Top2：義ドゥンドゥン

日本テレビのアナウンサー辻岡義堂さんは、冬季五輪の現地取材記者で、辻岡さんはビン・ドゥンドゥンの第一号ファン、そして有能な宣伝マンとなって、生中継中にビン・ドゥンドゥンのTシャツを着て、記者証に大量のビン・ドゥンドゥンのバッジをつけ、手にはビン・ドゥンドゥンのぬいぐるみを持ち、彼のデスクの上にはビン・ドゥンドゥンイヤホン、ビン・ドゥンドゥンノートなどあらゆるものが置かれていた。溢れんばかりの「ビン・ドゥンドゥン」愛のために、彼は中国のSNSで「義ドゥンドゥン」と呼ばれている。



中国外交部の華春瑩報道官もツイッターで「義ドゥンドゥン」に感謝する面白い報道を行っているよ。

Top3：冬季五輪のグルメ

今回の冬季五輪では、世界料理、アジア料理、中華料理、ブッフフェ、ハラルフード、ピザとスパゲティ、サラダと調味料、フルーツ、パンとスイーツなど12種類のカウンターが設けられ、計678種類の世界各地の特色ある料理が提供された。毎日200種類が各国のアスリートたちに提供され、8日ごとにメニューが変わった。競技が始まって以来、各国のアスリートたちは冬季五輪のごちそうに征服され、自分が愛するメニューの宣伝をした。選手は競技場にニラお焼きやあんまんを持ち込み、米国のジュリア・マリノ選手は取材の際、オリンピック村に入ってからすでに200個の餃子を食べたといい、オランダのスピードスケートのユッタ・リールダム選手は、インスタでマラータン（麻辣燙）への愛を発信した。5回の冬季五輪に参加しているベテランのスノーボードのショーン・ホワイト選手もまた、Tiktokに冬季五輪の豊富な食事を紹介した。「ここには本当に何でもあって、とてもおいしい。サラダ、中華、アジア料理、ピザ、スパゲティ……」



2021年11月13日に2022北京冬季五輪のアスリートメニューが発表されると、まず中国のネットユーザーの垂涎的となったよ。



Top4 マルタのジェニス・スピテリ選手

マルタのフリースタイルスキーのジェニス・スピテリ選手は今回の冬季五輪のマルタの旗手を務めただけではない。10日の試合の中で、彼女は成績が出るのを待つ間、ポケットからあんまん（豆包）を取り出し、食べ始めた。カメラに自分が映っているのに気づくと、食べ終わった彼女は親指をたて、おいしいと表現した。この可愛らしい動作により、虹色の髪をしたマルタの姉さんを多くの人を知ることになった。試合後、あんまんは本当においしく、毎日6個は食べていると彼女は言った。彼女は冬季五輪で「食レポ」をした初めてのアスリートかもしれない。



聖火は消えたが、冬季五輪精神は永久のもの



古典的名曲『蛍の光』とともに、北京の冬季オリンピックは幕を下ろした。楽しいひと時にもいつかは別れの時が来る。各国のアスリートたちは五輪旗のもとに集まり、スポーツがもたらす情熱、快楽、友情を共に味わい、相互理解の橋をかけ、世界中の人々が素晴らしい世界を築き上げるといった共通の目標をも凝集させた。今回の冬季五輪が世界に素晴らしさやオリンピック精神の伝承と貢献をもたらし、オリンピックの歴史に鮮やかな記録を残し、世界に永遠に銘記されるだろう。

「これは本当に比類なき冬季五輪だ！」国際オリンピック委員会のバッハ会長は閉会式の挨拶で述べた。「われわれにとって北京冬季五輪が忘れ難いものとなったのは、心のこもったもてなしをしてくれたホストの中国国民すべてのおかげだ」。これより前に開かれた国際オリンピック委員会第139回総会で、バッハ会長はオリンピックカップをすべての中国国民に捧げ、中国国民の北京冬季五輪に対する卓越した貢献に感謝した。

北京冬季五輪が終了した後、オリンピック公式アカウントには、「記憶は永遠に美しく、共に未来へ向かおう！」という中国人民の支持に感謝する文章が掲載された。

「今回の冬季五輪の看板は『グリーンなオリンピック』だ」。シンガポールの『連合早報』の報道によると、2020年に正式に操業が開始された張北再生可能エネルギーフレキシブル直流送電網モデル事業は、冬季五輪のグリーン電源供給重点プロジェクトで、中国が世界に示した「グリーン」の成績表ともなった。『朝日新聞』やスペインの

『ディアリオ・アス』など多くのメディアも、北京冬季五輪がとった多くの方面での環境保全措置や中国のカーボンニュートラル、そして大会運営の約束を称賛し、「これはこれからの夏季・冬季五輪の手本となるだろう」と指摘した。

北京冬季五輪スピードスケート競技に参加した日本の小平奈緒選手は、冬季五輪が終わった後、今回の冬季五輪のボランティアやスタッフに対し、「親愛なるボランティアとスタッフの皆様、おもてなしにとても感謝します。私はとても忘れ難い三週間を過ごしました。私はこの経験を忘れることなく、中国語をがんばって学び、次の機会には中国語をもっとよく話したいです。また会いましょう！」と中国語で感謝の意を述べた。

北京冬季五輪の開会式を1～10点で採点した日本の投票サイトでは、23,391人が開会式に10点満点をつけ、全体の45.7%を占めた。壮大で美しい中国式美学の盛宴と「一つの世界、一つの家族」という調和の理念が、隣国日本のネットユーザーの好評を博したといえる。



大トリとして、当館の薛剣総領事が大阪観光局の溝畑宏理事長と、今回の北京冬季五輪の素晴らしいエピソードについて語り合ったよ。詳しくは対談のQRコードを見てね！



中華人民共和国駐大阪総領事館

〒550-0004 大阪府大阪市西区鞆本町3-9-2
連絡先：06-6445-9481 (代表)

制作協力：中国外文局アジア太平洋広報センター
(人民中国雑誌社、中国報道雑誌社)



総領事館
Twitter



総領事館
Twitter



総領事館
Facebook



総領事館
YouTube



総領事館
TikTok



総領事館
HP